

漁業と北方領土

鹿部町立鹿部中学校 三年 米本 開人

漁港でつややかにうるこを光らせる魚体の良い鮭。漁師達が山積みになったその鮭を選別しています。マスがずっしりとかかった定置網を協力し合って船の上に引き上げる写真もあります。なんて豊かな海産物に恵まれた島なのだろうと驚きました。それらは戦前の写真でしたが僕にとって見慣れた風景そのものでした。僕の家は代々北海道の鹿部町という町で漁業をしています。過去の問題だと思っていた北方領土の問題が一気に自分の身近に迫ってきました。北方領土に住んでいた島民の方が豊かな漁場を奪われたときにどんなに辛い思いをしたのかということをはっきりと想像することができました。

なぜなら、漁師にとって、漁場がどんなに大切かわかっているからです。漁業や養殖をする際に漁場のことを知っておくことはとても重要なことです。季節や天候によっても魚が捕れやすい場所は変わります。ホタテの養殖もほんの少し場所が変わるだけで、身の締まり具合や成長の早さなども変わってしまいます。それらの知恵は長年の経験によって身につけ、代々受け継がれていくものでもあります。

また、漁業にとって地域の共同体というのはとても重要です。島民が協力し合って漁をしていたことは写真からもわかります。また、島にはそれらの水産資源を缶詰などに加工する工場も建てられていました。そうした漁業から始まる産業が北方領土を豊かな町としていたのです。

北方領土にはどれほどたくさんの人生や思いが詰まっていたのだろうと思いました。命がけで漁業をし、加工場をつくり、日々の生活を送っていた基盤があっけなくソ連によって占領されてしまったのです。元島民に島を返してあげたいと強く思いました。北方領土がこのような状況になったのは、ソ連が日本の負けがほぼ確定しているときに、1941年にソ連と結んだ日ソ中立条約を破棄して北方領土に侵攻したことが原因です。お互い中立な立場でお互いの国

に攻め込まないということを固くかたく約束したはずなのにソ連は攻め込んできたのです。

戦争によってこのようになってしまったのであれば、また戦争をしなければ北方領土は戻ってこないのでしょうか。

僕は違うと思います。戦争はたくさんの犠牲者を生みます。僕の祖父の兄が戦争に行って亡くなりました。だから、祖父は僕が幼いときから戦争がどんなにたくさんの人の命や生活を犠牲にするのかを話してくれました。また、北方領土に住んでいるロシアの人から戦争で故郷を奪うことは、永遠に続く奪い合いにつながるでしょう。

僕たちが北方領土のためにできること。それは北方領土について話を聞き、歴史や現状を知り、なるべくたくさんの立場から北方領土問題について考え話し合ってみることだと思います。元島民の方にお会いして実際にお話を聞くことで、僕の意識は変わりました。何とかしたいと思い、さまざまなことを知りたいと思いました。これからは僕自身が北方領土のことを語り継ぐよう努力していきたいです。

北方領土問題は過去の問題ではありません。今も起こり続けている問題なのです。